

花粉の少ない森林をつくる

(写真提供：神奈川県・岡山県)

スギは日本固有の樹種であり全国に広く分布しています。そして古来より盛んに利用されてきており、縄文時代の鳥浜貝塚(福井県)からはスギの丸木舟が出土し、弥生時代には水田の畦(あぜ)などにも使われていました。また、日本書紀や万葉集にも歌われるなど、とても身近な存在でした。

一方、現代では、春になると毎日の天気予報と同様に花粉の飛散状況がテレビで放送され、予防への注意喚起が行われるなど、スギ花粉症への対策は国民的課題となっています。このため、国や都道府県では、花粉の発生源であるスギ林を花粉の少ない森林へ転換を図っていくための取組を進めています。

スギ花粉症は、スギ林のない都市部でも多くの方が罹患(りかん)しています。これは花粉がとても小さく軽いことから、都市部郊外のスギ林で上昇気流により巻き上げられた花粉が、さらに風に乗って遠くまで運ばれるためです。このように花粉は広域に拡散していくため、都道府県単位での取組に加え、広域的な取組を進めることがとても重要となってきます。

今号では、花粉の少ない森林づくりに向け広域的な取組を行っている2地域の話をお伝えします。

九都県市花粉発生源 対策推進連絡会

首都圏の九都県市(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市)では、広域に飛散する花粉を発生させるスギ林を減少させるなどの花粉発生源対策を共同で進めるため、九都県市花粉発生源対策推進連絡会を設置しています。この連絡会では第1期(平成20～29年度)、第2期(平成30～令和9年度)のそれぞれ10カ年の計画を策定しています。

このうち第1期では、スギと広葉樹との混交林化や花粉の少ない苗木への植替えを進めることとしており、およそ20,729 haのスギ林で花粉の少ない森林への転換が行われました。

さらに第2期では、スギに加えヒノキ林も対策の対象に加え、計画期間の10年間で合計23,700 haのスギ・ヒノキ林を広葉樹との混交林化、花粉の少ない苗木への植替えを進める計画です。



無花粉スギ、少花粉ヒノキの植栽(神奈川県小田原市「H28 緑の祭典」)

林野庁の普及活動

【スギ・ヒノキ花粉削減対策シンポジウム2019】

一般の方を対象として、最新の花粉発生源対策の取組や花粉予測などを紹介するシンポジウムを開催！

昨年度の東京に続き、今年度は12月21日に大阪市で実施。

141名の方にご来場いただきました。

◆ 講演内容

林野庁、岡山県や民間企業（タマホーム）の取組、花粉症対策品種やスギ花粉飛散防止剤の紹介、花粉と気候の関係、花粉症の治療法など

会場では花粉問題対策事業者協議会（JAPOC）による花粉症対策グッズの展示も行われました。

シンポジウムは、令和2年度も実施予定です。開催が決まりましたら、林野庁ウェブサイトでお知らせいたします。



林野庁の花粉発生源対策に関する
ウェブサイト

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/kafun/



中国5県の担当者による少花粉スギ探種園（岡山県）調査

中国5県（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県）では、中国地方知事会の合意を受け、平成25年10月から広域連携を進めています。26年度からは知事会の中に設置された「スギ花粉症対策部会」の活動が本格的にスタートするのを契機に、「少花粉スギ普及推進中国地方連絡会議」が設置されました。

この広域連携では、植替えに使用する少花粉スギの割合を90%以上にする目標を立て、少花粉スギ苗木の安定生産体制の確立や普及啓発モデル林の設置などの活動を行っています。

少花粉スギ普及推進 中国地方連絡会議



少花粉スギのモデル林造成（岡山県新見市）